

全国のクマ類の近年の動向について

1. 分布状況

クマ類の分布状況及びクマ類の特定計画作成状況を図1に示した。クマ類の分布は2004年度調査（環境省, 2004）と比較して、2014年度（日本クマネットワーク, 2014）は、四国を除く全ての地域で分布域の拡大が認められている。また、クマ類に関する特定計画は、クマ類が恒常的に生息する34都道府県中22道府県で作成されており、第一種保護計画が8府県、第二種管理計画が14道県である。そのうち、2017年に新しく策定又は従来の計画の改定をしたのが18道府県であり、石川県及び滋賀県は2018年3月に改定した。栃木県は2020年、岐阜県は2019年に改定の予定である。

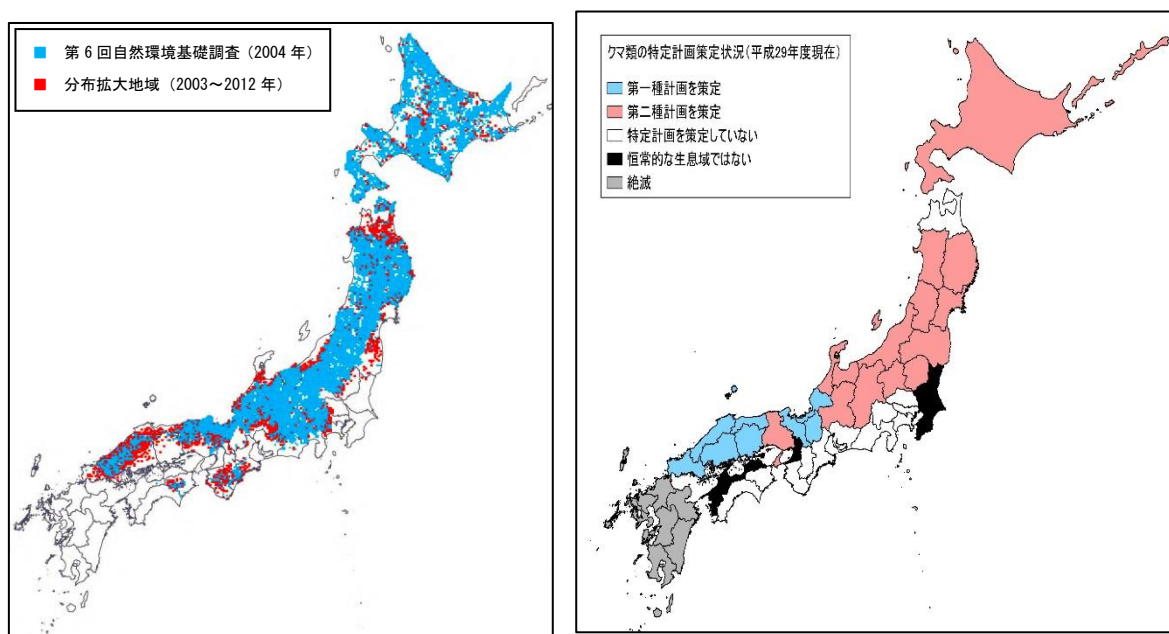


図1 クマ類の分布状況及び特定計画の策定状況

※日本クマネットワーク（2014）「ツキノワグマおよびヒグマの分布域拡縮の現況把握と軋轢抑止および危機個体群回復のための支援事業」報告書より引用

2. 全国の捕獲状況

〈全国の捕獲数-確定値-〉

1990年度から2015年度のヒグマの捕獲数を図2、ツキノワグマの捕獲数を図3に示した。近年では、ヒグマ、ツキノワグマともに許可捕獲（数の調整、被害防止目的の捕獲）の占める割合が高くなってきている。

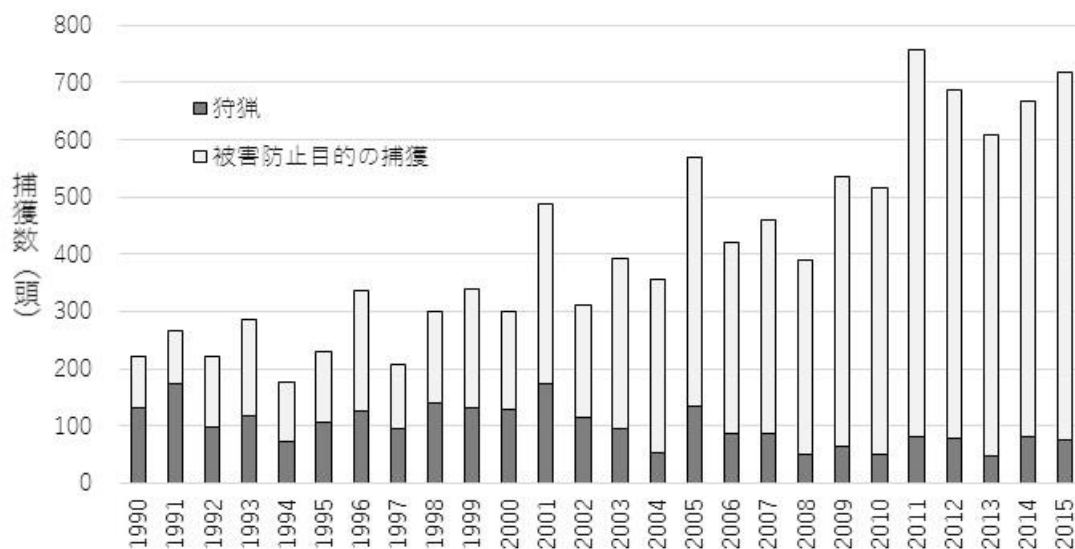


図2 ヒグマの捕獲数の推移（1990～2015年度）

鳥獣関係統計（環境省 HP）より作成

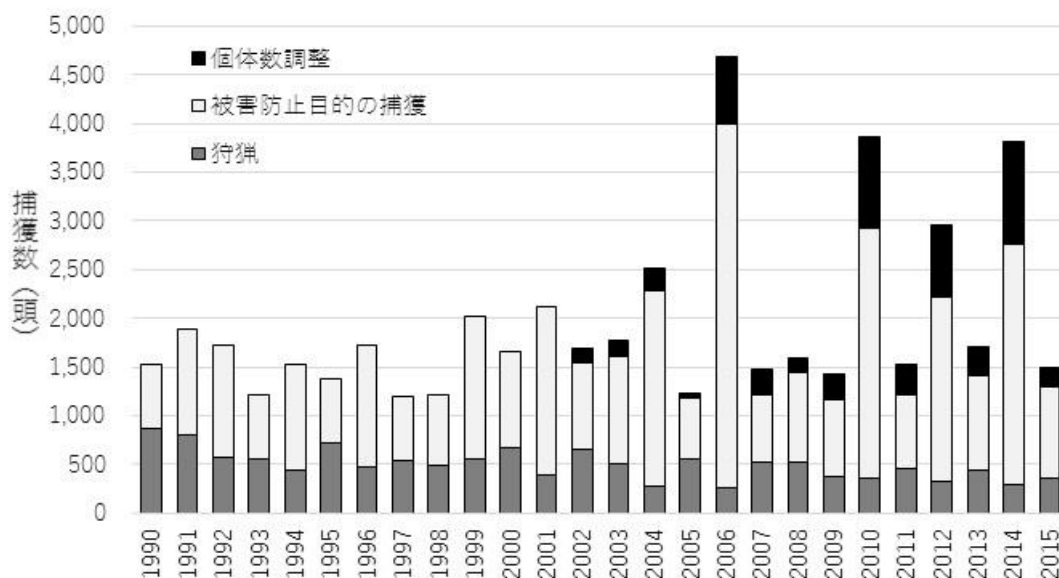


図3 ツキノワグマの捕獲数の推移（1990～2015年度）

鳥獣関係統計（環境省 HP）より作成

〈全国の捕殺数-暫定値〉

2018年度の許可捕獲数（10月までの暫定値）は、ヒグマが352頭（全て捕殺）、ツキノワグマが2,283頭（うち捕殺数2,163頭）であった（図4、図5）。ヒグマの許可捕獲数は2011年度以降では500～700頭で推移しており、今年度も同程度だった。ツキノワグマについては、2016年度までは隔年で増減があったが、2017年度は2016年度と同程度の捕獲があった。2018年度は2017年度と比較して捕獲数が減少した。

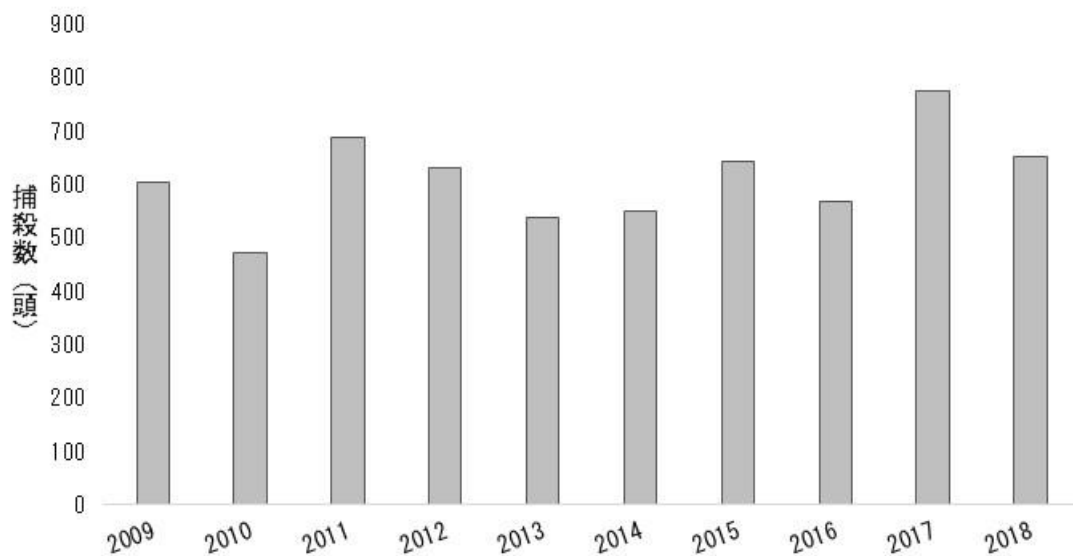


図4 ヒグマの許可捕獲による捕殺数の推移（2009～2018年：速報値）
環境省 HP より作成（2018年度は10月までの暫定値）

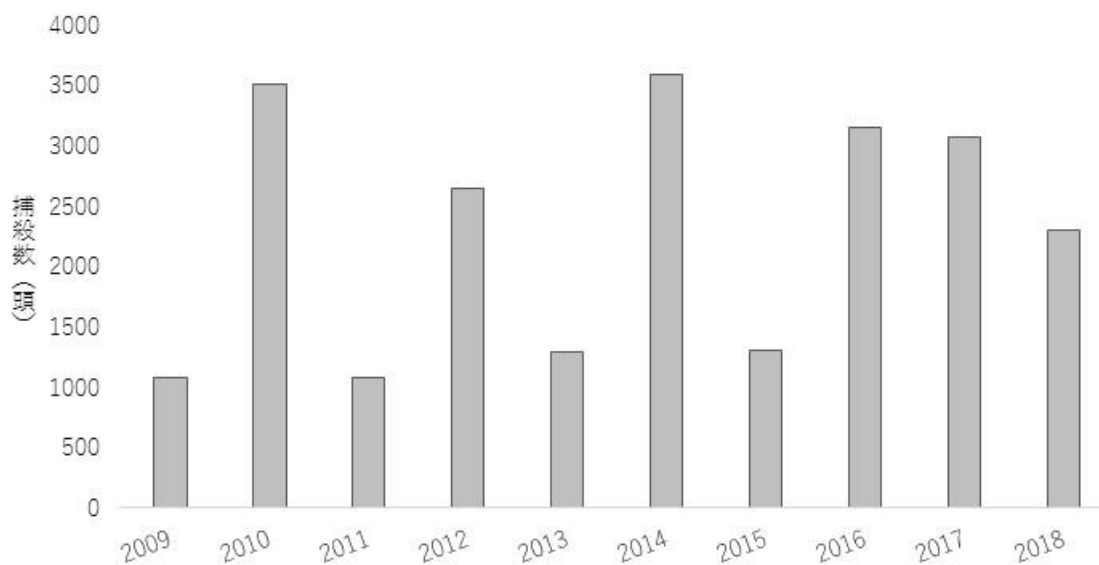


図5 ツキノワグマの許可捕獲による捕殺数の推移（2009～2018年：速報値）
環境省 HP より作成（2018年度は10月までの暫定値）

3. 全国の被害状況

(1) 農林業被害

クマ類による農作物被害（面積、量、金額）は、ニホンジカやイノシシなど他の野生動物による被害に比べて少なく、野生獣類全体の1～3%程度である。農作物面積・金額とも概ね横ばいで推移している（図6～8）。農作被害量では飼料作物が全体の約8割を占めており今年度は飼料作物の被害量が大きく増加したため、被害量は例年より増加した。

クマ類による林業被害面積の割合は野生動物全体の8%程度である。また、推移をみると年度間のばらつきはあるものの、1990年代から2011年度まで増加傾向を示していたが、2012年度以降は600ha前後にまで減少した（図9）。

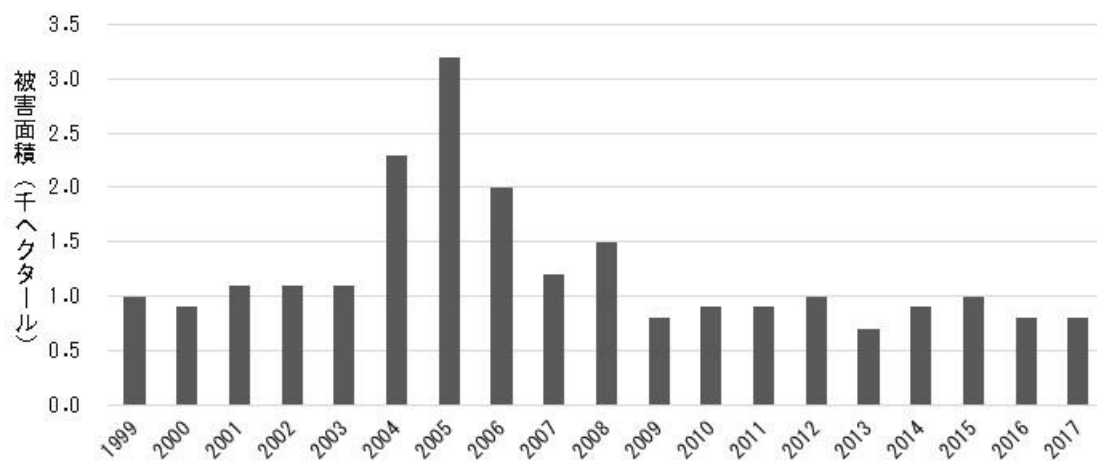


図6 クマ類による農作物被害面積の推移
(農林水産省 HP データより作成)

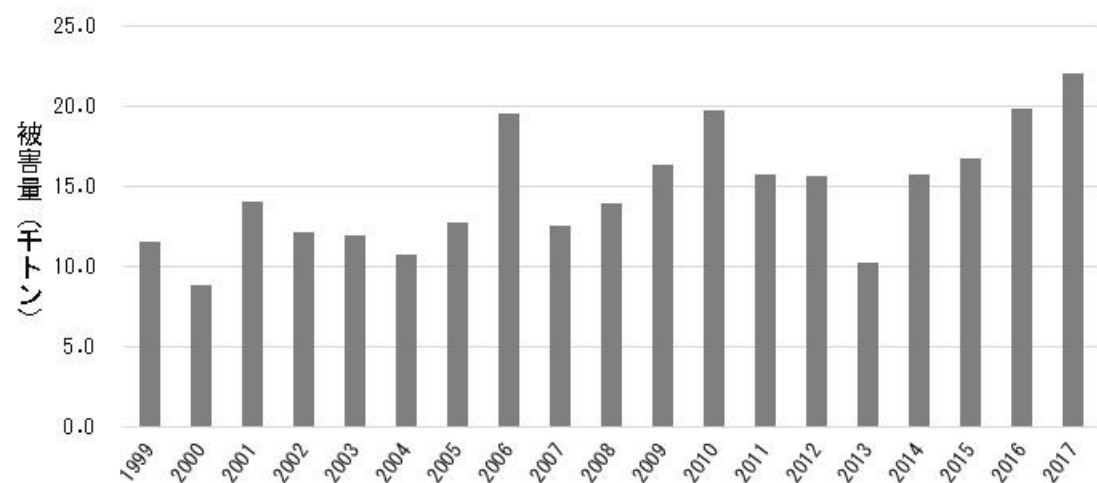


図7 クマ類による農作物被害量の推移
(農林水産省 HP データより作成)

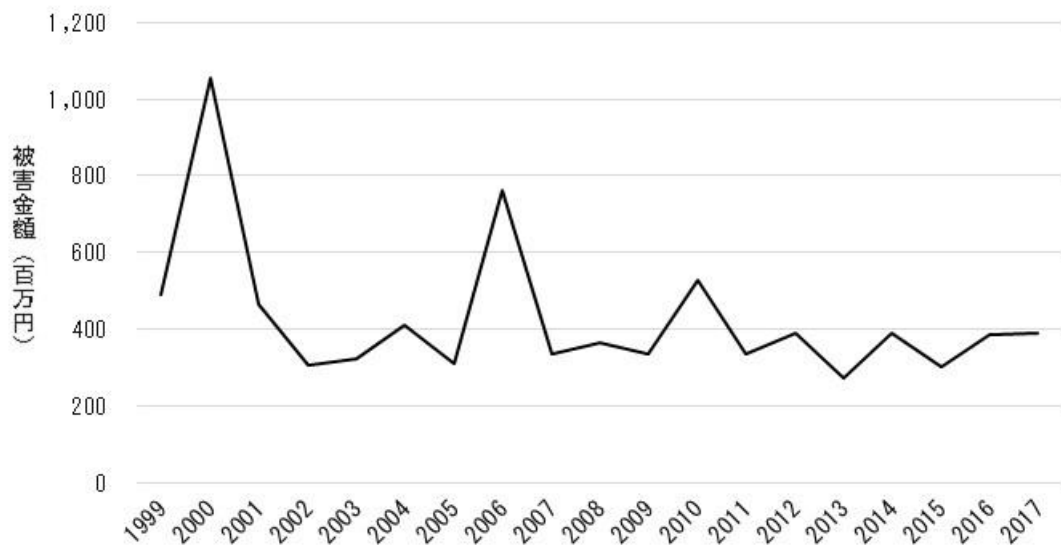


図8 クマ類による農作物被害金額の推移
(農林水産省 HP データより作成)

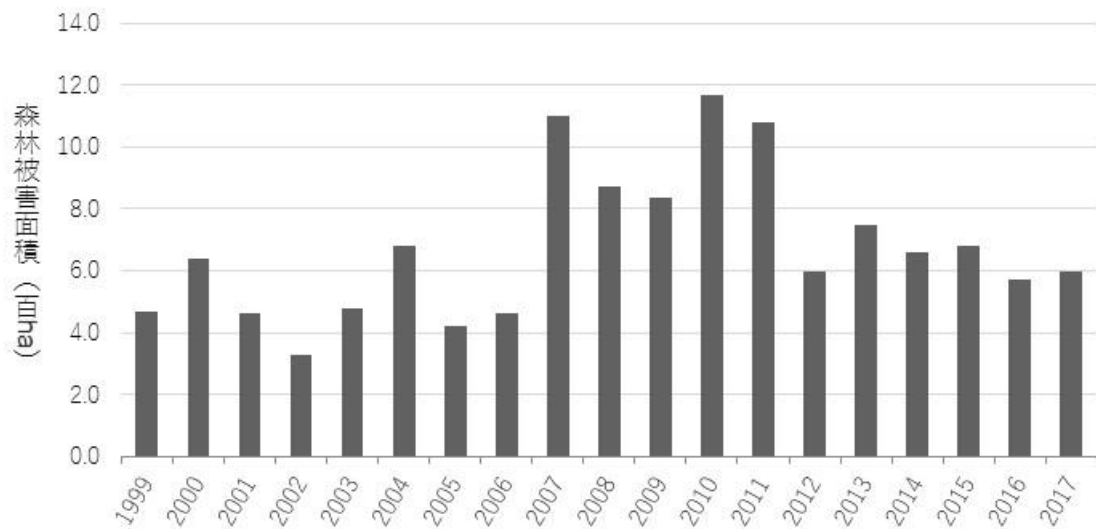


図9 クマ類による森林被害面積の推移
(林野庁 HP データより作成)

(2) 人身被害件数

2009年度から～2018年度の人身被害件数を図10に示した(2018年度は10月までの暫定値)。2018年度の人身被害件数は、ヒグマは合計2件であり昨年よりも少なく、ツキノワグマは東北地方(6県)、東北地方以外(27都府県)ともに昨年度よりも減少傾向であった。

2011年度から2018年度の月別のヒグマによる人身被害件数を図11に、ツキノワグマによる人身被害件数を図12に示した。月別のツキノワグマによる人身被害件数は、平常年、大量捕獲年、2017年度および2018年度に分類した。ヒグマでは通常春と秋に人身被害が発生しており、2018年度も同様の傾向を示した。ツキノワグマでは、大量捕獲が発生する年度は平常年度よりも9月～11月の人身被害の発生が多い傾向があった。2017年度は通常よりも人身被害発生件数が多いものの被害発生の傾向は平常年度と同様であった。また、2018年度も10月までの暫定値では、人身被害の傾向は平常年度と変わらなかった。

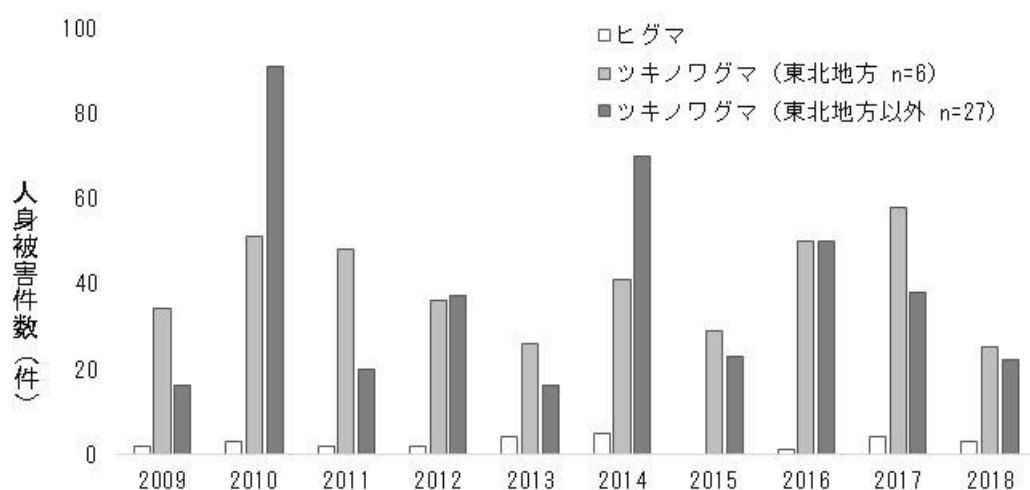


図10 人身被害件数(2009～2018年度)
環境省HPより作成(2018年度は10月までの暫定値)

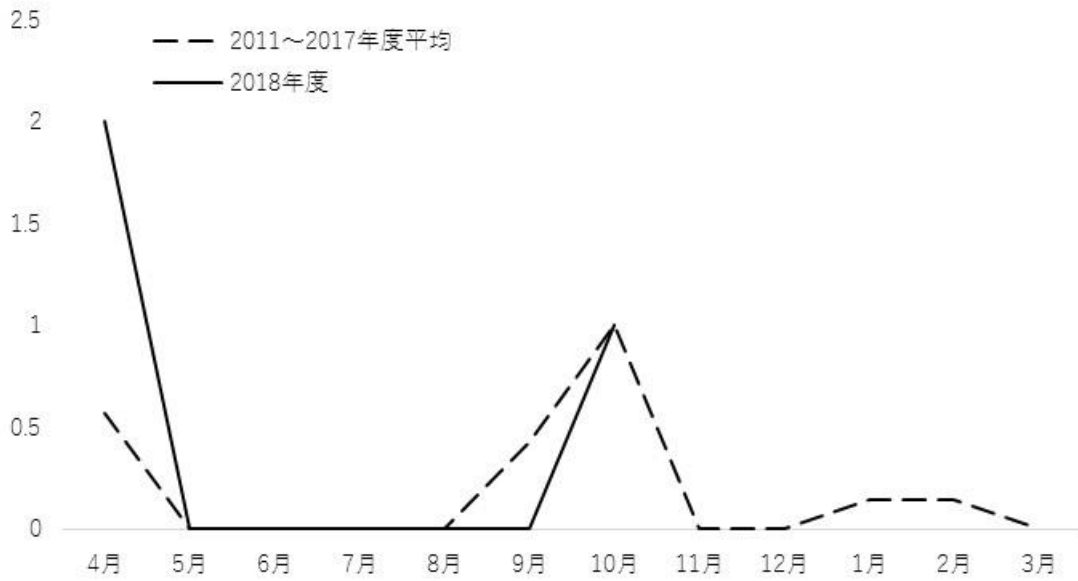


図 11 ヒグマによる月別の人身被害件数 (2011-2018年10月)

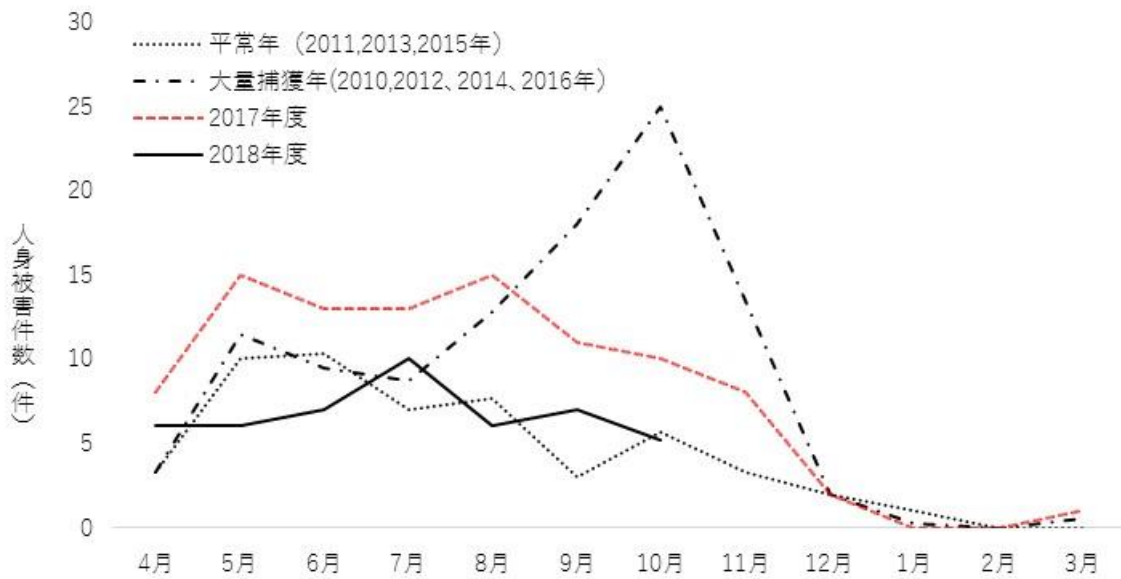


図 12 全国のツキノワグマによる月別の人身被害件数 (2011-2018年10月)

4. ツキノワグマの地方別の捕獲状況及び人身被害状況

ツキノワグマの地方別の許可捕獲数（捕殺数：2009～2018年度）及び月別の人身被害件数（2010～2018年度）をそれぞれ図13及び図14に、地方別の豊凶調査の結果（2013～2018年度）を表1に示した。人身被害件数は、各地方の捕獲数で平常年、大量捕獲年、2017年度および2018年度を分類した。なお、今年度の許可捕獲数及び人身被害件数は10月までの暫定値であり、最終的な集計値は異なる。

●各地方の分類は以下とした。

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東地方：栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県

甲信越地方：新潟県、長野県、山梨県

北陸地方：富山県、石川県、福井県

東海地方：岐阜県、静岡県、愛知県

近畿地方：滋賀県、京都府、兵庫県

中国地方：岡山県、鳥取県、島根県、広島県、山口県

※紀伊半島（三重県、奈良県、和歌山県）は2012（平成24）年に1頭の捕獲、四国地方（徳島県、高知県）は捕獲がなかったことから、図6からは省いた。

2018年度の捕獲数が前年度より減少したのは、東北、甲信越、東海地方であった。他の地域は前年度以前と比較して増加又は横ばいの傾向であった。

人身被害は、東北地方では大量捕獲年度と平常年度の傾向に差がなく、春（5～6月）と秋（9～11月）の発生が顕著であった。中国地方を除く他の地方は、大量捕獲年度では秋（9～11月）に多く発生する傾向がみられた。中国地方は、大量捕獲年度では初夏（6～8月）と秋（9～11月）に多く発生する傾向がみられた。また、大量捕獲年度は堅果類も並作以下である傾向がみられた（表1）。捕獲数が多かった2017年度と今年度の人身被害は、平常年度と同様の傾向であり、また堅果類の豊凶も並作程度かそれ以上の地方が多かった。

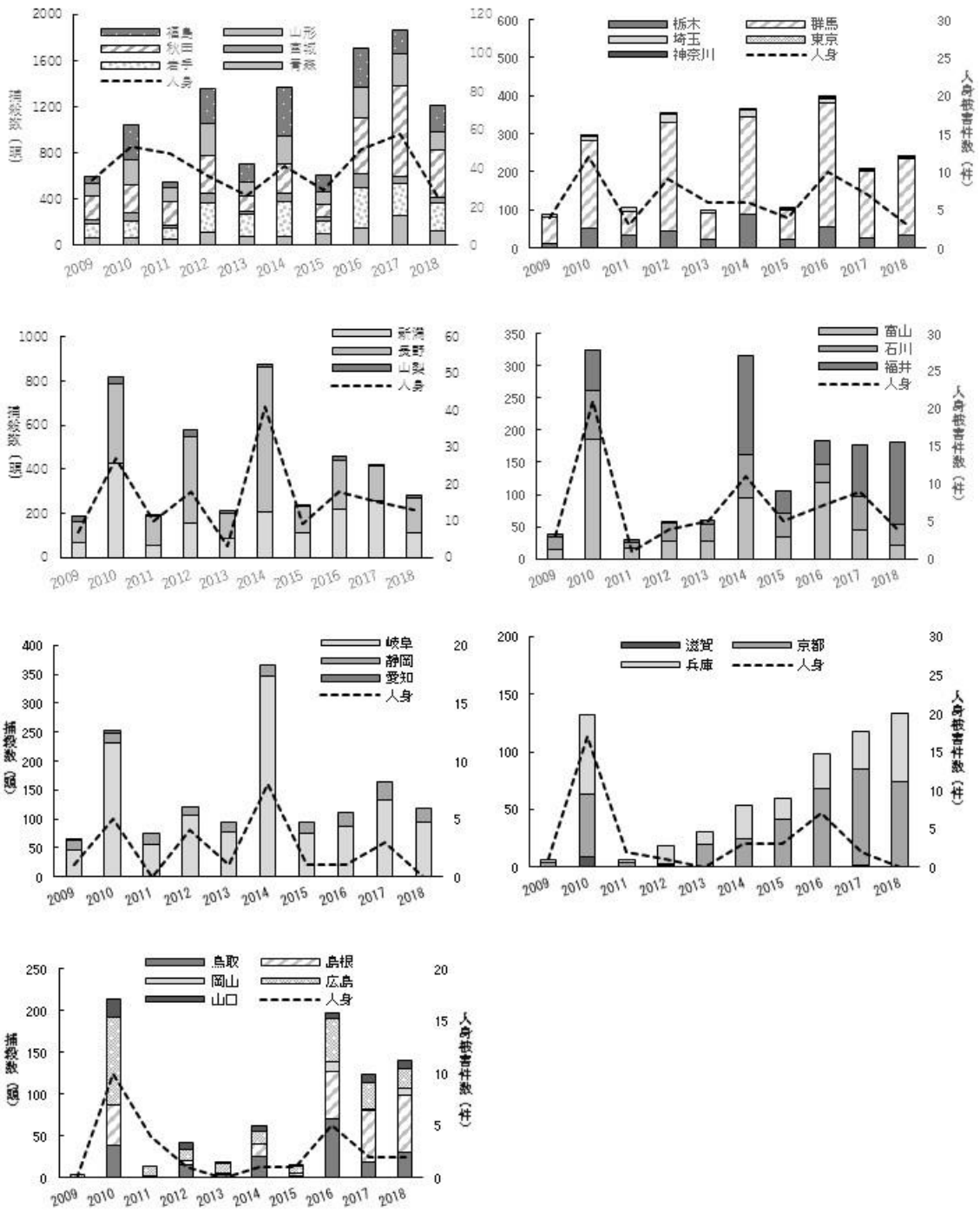


図 13 地方別の許可捕獲による捕殺数の推移 (2009~2018 年度)

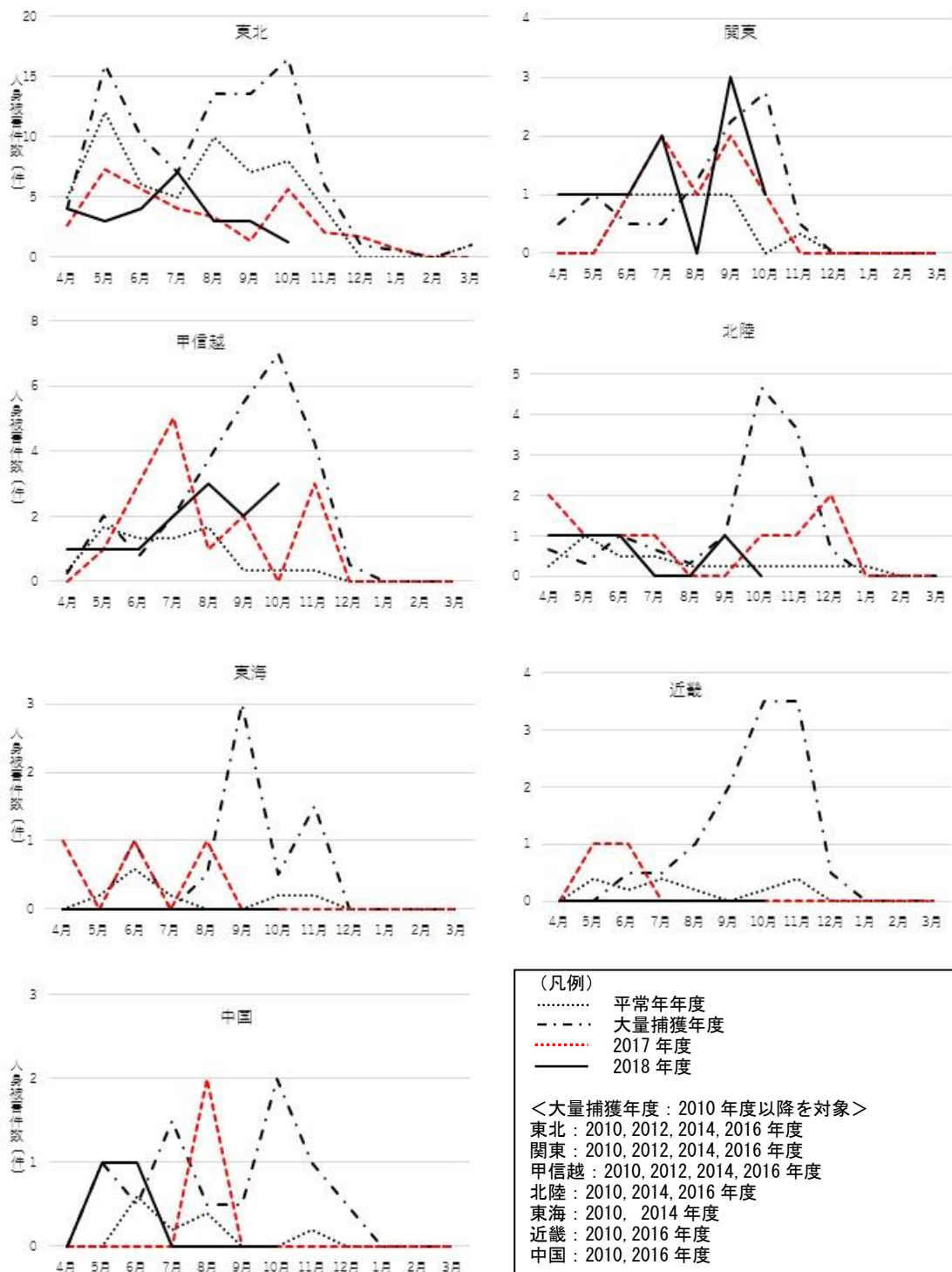


図 14 地方別の人身事故の推移（平常年度、大量捕獲年度、2017年度、2018年度）

表 1 地方別の豊凶調査の結果

地域	2018 年度			2017 年度			2016 年度			2015 年度			2014 年度			2013 年度		
	ブナ	ミズナラ	コナラ	ブナ	ミズナラ	コナラ	ブナ	ミズナラ	コナラ	ブナ	ミズナラ	コナラ	ブナ	ミズナラ	コナラ	ブナ	ミズナラ	コナラ
北海道	1.0	1.0	—	1.5	1.0	—	1.0	2.0	—	1.0	1.0	—	1.0	2.5	—	2.5	1.0	—
東北	※	※	※	1.0	2.1	1.8	1.0	1.2	1.3	3.1	1.9	1.9	1.3	1.2	1.5	2.8	1.6	1.9
関東	1.8	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.4	1.3	1.5	2.0	2.5	2.0	1.0	1.1	1.6	1.8	2.0	1.8
甲信越	1.0	2.0	2.3	1.0	1.8	1.8	1.0	1.2	1.8	2.5	2.2	2.2	1.0	1.3	1.5	1.0	1.8	1.8
北陸	2.5	2.3	1.8	1.3	1.7	2.0	1.0	2.0	1.7	2.3	2.0	1.7	1.0	1.3	1.5	1.5	1.5	1.3
東海	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	0.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5
近畿	※	※	※	1.7	2.3	2.0	1.0	0.7	1.5	1.7	2.3	1.7	0.7	1.2	1.2	1.8	1.5	1.0
中国	0.7	2.7	2.0	2.8	3.0	3.0	0.7	1.7	2.2	2.8	2.8	2.8	0.5	2.3	2.8	3.0	1.5	2.3

※ 1 : (※) 調査中又は集計中、(—) : 収集していない

※ 2 : 大凶作 : 0、凶作 : 1、並作 : 2、豊作 : 3、大豊作 : 4 として集計した。

※ 3 : 埼玉県、静岡県、広島県、山口県のデータは含まれていない。他県も年度によってはデータの欠損あり。

※ 4 : 色塗りは大量捕獲年度を示す。

環境省 HP より作成